

【INDEX】

◆視点

・伊豆地域での特徴ある農業研究

◆研究情報

- ・茶新品種‘しずゆたか’‘ゆめすみか’が品種登録されました
- ・カバークロープの花粉は天敵による防除効果を強化する

視点

伊豆農業研究センター センター長 馬場富二夫

伊豆地域での特徴ある農業研究

静岡県東部の伊豆半島は、火山帯からなる自然や食材に恵まれた国内有数の観光地であり、地域資源を活用した振興が進められています。伊豆農業研究センターでは、農業を通じた産業活性化のため、特産農作物である果樹、花き類、ワサビを主な対象品目とした試験研究に取り組んでいます。

山間地で栽培される果樹では、中晩生カンキツで特産の‘ヒュウガナツ’で開発した「カットバック処理」（老木の主幹部を地上 50cm 程度残し切除後、再生枝を仕立て直し、樹高を低く抑えて労力を軽減する技術）について、適応品種の拡大および生産性の向上試験を行っています。また、伊豆地域の黒ボク土壌や日射量が多い環境に適応する中晩生カンキツの新品種導入選抜のほか、栽培安定化のための技術を研究しています。

ブランド力の高い切り花カーネーションでは、労力軽減や管理自動化も視野に、収益性向上のための開花予測技術開発、低コスト化につながる栽培技術開発を推進しています。

オリジナル品種を多数育成しているマーガレットでは、他のキク科植物と交配し、従来のマーガレットにはない低温耐性を有する品種「ビジューマム」シリーズ、夏季に開花する品種‘ニューサマステラ’を育成、静岡県の独自品種として他産地との差別化を図っています。

静岡県内、特に伊豆半島は降水量が多く、水ワサビ最大の産地となっています。ワサビ栽培では苗不足解消やわさび田での安定生産のため、様々な環境に適応する品種の育成、夏季の苗づくり技術、わさび田での暑さ対策の研究を実施しています。また、本県ワサビ栽培の優位性を維持するため、品種流失を防止する品種識別技術、遺伝子情報から有用個体を選抜するための技術開発を行っています。

近年、多くの農作物で夏の高温対策が重要な課題となっており、伊豆農業研究センターでも他機関と連携しながら対策技術の検討や普及を進めています。高温を回避するための資材検討、栽培作型の開発、高温時の生育に優れた品種の育成など、上記特産品目での対策を進めるとともに、新たな作物の導入も検討しています。熱帯果樹である「アボカド」については、令和7年度から3年間の県プロジェクトに参画し、伊豆地域での栽培適応性評価、着果不安定性の要因解明に取り組んでいます。

当センターでは今後も、産地や関係機関の皆様と連携しながら、伊豆地域の温暖で特殊な気候環境、観光地としての特性を活かした農業研究を通じ、地域振興に貢献したいと考えております。



アボカド果実

ビジューマム(浜名湖花博 2024) わさび田での遮光資材検定

研究情報

茶新品種 ‘しずゆたか’ ‘ゆめすみか’ が品種登録されました

茶業研究センターでは、生産者や消費者等の多様化するニーズに対応するため、新品種の育成に取り組んでおり、2024年4月に‘しずゆたか’、‘ゆめすみか’の2品種が新たに登録されましたので御紹介します。

‘しずゆたか’（旧系統名「95-7-35」）は、静岡県茶業を豊かにすることを願って‘しずゆたか’と命名しました。本品種は、生葉収量が‘やぶきた’の約2倍と超多収性であり、重要病害の炭疽病にも強いため、近年需要が堅調であるドリンク原料の低コスト生産や海外で需要の高い有機茶の生産に適しています。また晩生のため、多収性で炭疽病に強いやや早生品種の‘つゆひかり’と組み合わせることで、さらに安定した栽培が可能になります。

‘ゆめすみか’（旧系統名「90-2-213」）は、夢のある明るい未来への期待と、本品種の特徴である澄んだスミレのような香りにちなんで‘ゆめすみか’と命名しました。本品種は、香りに特徴があり、生葉を萎凋（萎れさせる）することでスミレ様の甘い香りが際立ちます。特徴のある茶商品の生産や販売に取り組む方々に適しています。

今後も、作期の拡大に向けた早晩性の異なる品種や、機能性成分に富んだ品種など、多様化するニーズに早期に対応できるように、ゲノム解析等を用いたスマート育種に取り組んでまいります。

（茶業研究センター 茶生産技術科 研究員 青島千恵理）



図 新品種の一歩茶園相

研究情報

カバークロップの花粉は天敵による防除効果を強化する



図 ペレニアルライグラス草生とコウズケカブリダニ

カンキツの害虫であるミカンハダニやミカンサビダニは薬剤感受性の低下が問題となっており、農薬に頼らない防除方法が求められています。そこで当センターでは、土着天敵を活用した病害虫管理技術の開発に取り組んでいます。

コウズケカブリダニは、県内の様々な果樹園に生息する土着天敵です。この天敵の増殖時期（4～6月）に、農薬散布する場合、影響の小さい薬剤を選択することで天敵が有効に働き、ミカンハダニやミカンサビダニの密度を低く抑えることができます。

また、コウズケカブリダニは害虫だけでなく、花粉等の植物質の餌も摂食します。園地の下草にイネ科カバークロップであるペレニアルライグラスを生やすことで、その花粉が、コウズケカブリダニに餌

として提供され、天敵の密度が高まり、ミカンハダニやミカンサビダニの防除効果が強化されます。

当センターではコウズケカブリダニを生物農薬として利用できるように製剤化についても検討しています。

（農林技術研究所果樹研究センター 果樹環境適応技術科 研究員 鈴木晴喜）

開発編集・発行 静岡県農林技術研究所

〒438-0803 静岡県磐田市富丘 678-1

TEL : 0538(36)1553 (企画調整部) FAX : 0538(37)8466 E-mail : agrikikaku@pref.shizuoka.lg.jp

URL : <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>